

会 議 録

会議の名称	第2回茨木市提案公募型公益活動支援事業評価委員会
開催日時	平成31年4月15日(月) (午前・ <u>午後</u>) 2時00分 開会 (午前・ <u>午後</u>) 4時30分 閉会
開催場所	南館中会議室
議長	山本 博史 氏 (追手門学院大学 地域創造学部 地域創造学科 教授)
出席者	【評価委員】 山本博史氏(追手門学院大学地域創造学部教授)、百瀬真友美氏(特定非営利活動法人いばらき市民活動推進ネット)、高田和子氏(東奈良コミュニティセンター会計)、板倉幸司氏(公募市民)、中野利絵氏(公募市民) (5人) 【事務局】 小西市民文化部次長、富崎市民協働推進課参事、三河市民協働推進課職員、中山市民協働推進課職員 (4人) 【担当課】 スポーツ推進課、危機管理課、長寿介護課、子育て支援課、市民協働推進課 (5課)
開催形態	一部公開(傍聴者:0人) ※議題の(4)意見交換以降は非公開
議題(案件)	(1) プレゼンテーションについて (2) 各団体によるプレゼンテーション (3) 質疑応答 (4) 意見交換
配布資料	・第2回茨木市提案公募型公益活動支援事業評価委員会次第 ・平成31年度 茨木市提案公募型公益活動支援事業 申請事業一覧及び申請書類 (※個人情報を含むため省略)

○事務局 お忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

ただいまより平成31年度第2回目の「茨木市提案公募型公益活動支援事業評価委員会」を開催させていただきます。

まず始めに、山本委員長からご挨拶をお願いいたします。

(山本委員長 挨拶)

○事務局 本日の出席委員は5人でございます。全員出席していただいておりますので、会議は成立いたしております。

それでは、本日の委員会の概要をご説明申し上げます。本日は自由テーマ型事業7件、青少年スポーツ大会事業1件のプレゼンテーションを予定しております。

なお、今回3月募集の要領には、5月1日から事業開始で5月初旬に交付・不交付の決定通知を行うと記載しておりますので、前回第1回、本日第2回、19日に開催の第3回分も合わせて、速やかに事務局で集計を行い、委員の皆様及び各団体に結果を通知いたしたいと考えております。

また、本日も傍聴の希望はございませんでした。本日の委員会の概要説明は以上です。引き続き、委員長に進行をお願いいたします。

○山本委員長 ありがとうございました。それでは、説明のありましたように、プレゼンテーション及び評価を行い、その集計結果を委員会の意見として市へ報告したいと思います。

また、会議の公開・非公開につきましては、自由な意見交換という観点から、次第の「意見交換」以降は非公開といたしたいと存じますが、いかがでしょうか？

(各委員 異議なし)

○山本委員長 それでは、プレゼンテーションを始めたいと思います。

<団体入室>

○事務局 持ち時間は5分とさせていただきます。30秒前に一度ベルを鳴らしますのでまともに入ってください、5分が経過時点で再度ベルを鳴らしますので、終了していただきますようお願いします。

それでは準備がよろしければお始めください。

<プレゼンテーション①>

テ ー マ：自由テーマ型事業 申請事業：ラジオ体操 申請団体：茨木ラジオ体操会連盟

○山本委員長 プレゼンテーションは以上です。質疑をお願いいたします。

【評価委員との質疑】

・収支予算書に収納箱と収納箱を取り付ける工事費を計上されているが、中央北グラウンドや水尾グラウンドに収納箱を設置するのであれば、事前に公園緑地課等の許可があると思うが。

→目的が体操であり、使用場所を掃除するための清掃用具入れであれば設置してもいいという返事をいただいている。

・設置場所は具体的にどこを計画しているのか。

→オリーブの森の一角に予定している。現在は屋根裏においている。

・4つ活動拠点があるうちの中央グラウンドに一つ設置するということか。

→中央グラウンドはスポーツ推進課に依頼してバックネットの近くに設置してもらっている。あやめ橋を今回設置したいと考えているが、沢良宜神社は神社の中で収納してもらい、水尾グラウンドは、グラウンドの中の物置を活用させていただいている。

・今年度の収納箱の設置は1か所か。

→1か所である。

・今後の展開のところで、正会員30名位募り、年会費を500円貰うとあるが、現在も会費を集めているのか。

→はい。

・ラジオ体操に参加する方は増えているのか。それとも毎回同じ方が参加しているのか。

→5～6人から始まり、現在は40～50人と増えてきている。若い人は働いているが、定年を迎えて朝のリズムがなくなる。健康寿命を延ばすために我々の呼びかけに応じてもらいたいと思っている。

・増えてきているのはどのような呼びかけによるのか。

→春日地区の自治会でパンフレットを回覧してもらった。

・支出で印刷費として5千円×4団体計上しているが、月に1回ラジオ体操新聞を発行するための費用か。

→はい。ひだまりはNO.191まで発行している。

・今まで補助金を申請しなくても発行できているものを、今回補助金の申請に計上するのはどうかなという疑問がある。

→今までは寄付をしていただいて、賄ってきた。

○山本委員長 それでは、担当課に本事業に関しまして、意見をお願いいたします。

【スポーツ推進課の意見】

・高齢者の健康寿命を延ばすということで、とても良い取り組みをされている。後半にもあったように、ここでラジオ体操をやっているというチラシを作っていただいて、体育館等で掲示させていただきながら、新しい方への周知に協力をさせていただいている。

※以下、質疑及び担当課意見のみ記載

<プレゼンテーション②>

テ ー マ：少年少女スポーツ大会事業
申請事業：茨木杯キックベースボール大会
申請団体：さわやかリーグ実行委員会

【評価委員との質疑】

- ・昨年度の会計報告について、前年度の繰越金が70,186円あるが、結局5千円のマイナスで終わっている。3回の補助金交付が終わるが、自立することは可能か。
 - 市の補助金を計上していない。マイナスになっているが、補助金を入れると実際はプラスになる。
- ・補助金がかもし入らなくなるとどうするのか。
 - 予算的には厳しくなる。
- ・それに対する計画はないのか。
 - さわやかリーグで行っているスポーツ大会があり、クリスマスカップ等細かい大会があるが、そこでお菓子を配布するのはやめようと考えている。また、会費をとっていないかったのをとろうと思っている。2、3年後にチーム数が減っていく見込みだが、増やせるようにしたい。
- ・数年後に減っていくのは子どもの数が減るからか。
 - キックベースというスポーツに対する保護者の方の認識が変わってきている。サッカーやバレー、スイミング等習い事の種類の以前に比べて増えている。現状としては、ここ3年ぐらいチーム数は増えているのだが。
- ・実際に数字も21チームから24チームに上がっている。増やす努力をされているのだと思う。
- ・北摂の中で茨木のチーム数が突出して多い。1チームで何人ぐらい参加しているのか。
 - チームによって違う。多いところで40人ぐらいである。平均して20人ぐらいである。

【スポーツ推進課の意見】

- ・4年前にスポーツ推進計画を策定し、その中の子どもたちがスポーツをするきっかけづくり、子育て世代の若い層がスポーツに取り組むきっかけづくりということをまさに現場で実践していただいている。子どもたちがキックベースをすると保護者の方も関わって一緒に汗をかくという取り組みをされている。

今回3回目の申請だが、これからも続けていってほしいと思っている。

<プレゼンテーション③>

テ ー マ：自由テーマ型事業
申請事業：被災地間の高校生交流でまちの元気に貢献する！親善野球試合
申請団体：がんばろう！つばさネットワーク

【評価委員との質疑】

- ・今回3回目の申請だが、企業等の協力により今後も継続して行っていけそうか。
→はい。
- ・野球交流が10年になることにより、次のステップに進みたいとあるが、どのようなことを考えているのか。
→姉妹都市みたいなことができないかとか、姉妹校という形で協定等を結べないかとか色々な意見がでている。
- ・魅力的な活動で、色々と影響があったかと思うが。
→向こうから来られる生徒は、ホームステイをしてもらっている。ホームステイ先が充当されない生徒は集会所に泊まってもらっている。ホームステイ先のご家族の方に優しく接してもらっており、集会所に泊まった生徒は朝周辺のゴミ拾いをしてきている。散歩している周辺の方々に試合を見に行くよと声をかけてもらえることもある。
- ・昨年の収支計算書をつけていただいているが、補助金・助成金の中にチャレンジいばらき補助金とJR西日本の助成金がある。どちらもこの事業のための補助金か・
→チャレンジいばらき補助金は2017年度のものである。
- ・高校生が募金活動を行っていたり野球をしたりということだが、この事業に実行委員として高校生が関わる等、この事業自体に自発的に高校生が関わっているというようなことはあるか。
→今後の課題だと思う。事務局等については、細かい作業もあり、お金のことも絡んでくるので高校生には現状運営までは関わってもらっていない。協会の役員のところに打ち合わせ行ったりという社会勉強ができることには一緒に行ってもらったりしている。

【スポーツ推進課の意見】

- ・スポーツ少年団の野球部会が高校生の野球大会で交流をさせてもらっている。交流会に子どもたちが参加することで、東日本大震災の復興の様子等を聞きながら、大阪北部地震もあったが、自分たちが被災したときにどう行動するのかということを考えさせられる良いきっかけになっている。今後もこのような取り組みを続けていってほしいと思う。

【危機管理課の意見】

- ・東日本大震災で被災された高校生と昨年の大阪北部地震で被災された高校生という遠く離れた高校生が交流することによって、街を元気にしていこうという取り組みは、市にとってとても有効な事業である。

<プレゼンテーション④>

テ ー マ：自由テーマ型事業

申請事業：犯罪の抑止と自然環境の保全、自然災害への対応

申請団体：茨木市「大岩」パトロール隊

【評価委員との質疑】

- ・収支予算書の中で、隊員用の安全靴と制帽が35個ずつあり、誘導灯と安全ベストが20個とある。35名の隊員が全員ベストを着て交通整理をするわけではないということか。
→はい。機構図を添付しているが、交通を担当する隊員を中心に行うので全員というわけではない。
- ・組織についてだが、自治会の中の組織なら申請団体は自治会になるのかなと思うのだが。
→自治会の内部組織という位置づけではあるが、今まで隊員が必要なものをそれぞれ用意していたが、やはり経費がかかるので、看板を立ててやっていこうと自治会としてもなった。内部組織といってもOP隊として自治会全員ではなく、35人が隊員として組織した。
- ・事業内容にパトロールや災害時対応とあるが、地域に自主防災組織はないのか。
→ない。自治会としても校区全体としてもない。自治会館と消防の屯所が同じ地域内にあるので連携をとって備えている。
- ・新たに作るという動きもないか。
→今のところない。

【危機管理課の意見】

- ・防災について、市民の方が自ら防災・防犯についての意識の向上を努めていただくことは、市が目指す市民と共に安全安心なまちづくりを推進していくという方向性と十分合致するものだとの認識している。

<プレゼンテーション⑤>

テーマ：自由テーマ型事業

申請事業：高齢者がミニポニーを飼育して幼稚園などに慰問に行く事業

申請団体：ホースパークひだまり

【評価委員との質疑】

- ・収支予算書に預託費を計上しているが、昨年までは預託していて、今年は自前の施設で行うということであれば、別の科目になるのではないか。
→自前の施設で行うことを目標にしているが、まだそこまでいっていない。自分たちの力で自分たちの馬を管理できるようにはなりたいと考えているが、確定的な目途は立っていない。
- ・年間で費用がかかるとは思うが、寄付金や補助と自己負担でやり繰りとなると、継続性はどうか。
→全活動費を入れて、自己負担は51万円ぐらいだが、メンバーのお小遣いも入っている。訪問に行けば、餌代としての寄付等をいただくことが多いので、繰越金で19万円ぐらいはある。今の事業を維持、継続していくことについては、問題はない。
- ・もう一頭ミニポニーを増やすという計画をしているが、支出に入っていないのはなぜか。
→今のところいくらで購入するのかとかは、まだ働きかけをしているだけなので、予算書

に具体的な金額を載せられていない。譲っていただければと思っている。

・高齢者がミニボニーの世話をして生きがいや癒しを与えるというところから始まり、今は世話をする側というよりは、慰問先で喜んでもらえることの効果を実感していると思う。障害者の社会参加研修を導入とあるが、あまり出発点にこだわらずに、ニーズに合うところで展開していただけたらと思う。障害者だけではなく、ニートやひきこもりの方が社会に出るための中間的就労のような役割の事業も是非していただきたいと思う。

→人間科学大学の担当者を紹介してもらいボランティアを管轄している教授の先生にご挨拶に行ったが、管轄しているといっても載せるだけだとのことで話がなくなった。どこに相談したらご協力いただけるのかを勉強しなければならない。

【長寿介護課の意見】

・高齢者の生きがいや社会参加は問題になっており、こういう活動を通じて生きがい等を感じていただけたらと思う。

<プレゼンテーション⑥>

テーマ：自由テーマ型事業

申請事業：第3回子育て支援フェスティバル

申請団体：一般社団法人子育てサポート・えん

【評価委員との質疑】

・収支予算書の人件費のところだが、二百円ではなく、二千元の間違いではないか。

→二千元の間違いである。

・7月開催の時間も1日か。

→7月は午前中のみ、12月は1日の予定。

・スタッフの報奨金で12人は千円、23人は二千元と金額に差があるのはなぜか。

→7月は午前中ということで千円、12月は一日なので倍にしている。

・団体を立ち上げて知名度がないので、このような大型のイベントを行い知名度を上げることがねらいだったと思うが、順調に積み重ねてこられていると思う。遊び場づくりが目的ではなく、相談につなげて子育ての困難を支えるということが本来のねらいだと思うが、そこにつなげることが、今少しとどまっているように思う。次のステップとして、子育ての課題に直接アプローチできるような子育て支援講座等の機会も必要かなと思うが、本当に支援が必要な方は講座等をして来ないので、その支援等をどのように考えているか。

→フェスティバルだけではなく、月1回は子育て相談も行っている。畑田やソシオ等に行ったが、なかなか人が集まらない。地域にチラシを配っても来ない。イオンなら大勢の人が来るが、相談だけならやはりしにくい雰囲気があるので、エプロンをしたり、遊びを取り入れたりして少しずつ相談しやすい雰囲気になるよう工夫している。

・民生児童委員とのつながりとかは考えられないか。民生児童委員なら市民団体だけでは繋がらないところを拾えるのではないか。

→畑田で開催したときに、民生委員の方が子育てサロンを行っていたので、参加させてもらった。地域とのつながりは大事だと思うのでやっていきたいが、やはり知名度が低い。フェスティバル等インパクトを入れながら、定期的に子育て支援事業を積み重ねて少しずつ認知されてきていると思う。

- ・若い女性はネットを閲覧になる方も多いので、地域にそのようなサイトがあればと思う。

民生委員は個別の件についてもご存知だと思うので一度声をかけてみたら良いのでは。

→ネットについては、まちライブラリーではフェイスブックを通じていいねをもらったりしている。私たちの力量も含めて手探りでやっている。ネットも活用しながら、少しずつやっていければと思っている。イオンは一年間を通して場所を提供していただけることになった。

【子育て支援課の意見】

- ・子育てフェスティバルは土曜日に開催していただくということで、父親の参加も期待できる。本市の子育て施策と方向性も合致しており、とても良い事業だと思う。

<プレゼンテーション⑦>

テーマ：自由テーマ型事業

申請事業：地域の活性化又は社会及び地域の課題解決が図られる事業

申請団体：みんなのほっとルーム

【評価委員との質疑】

- ・収支予算書を見ると、支出のところで家賃の金額が大きくて、月会費の収入も大きくてとなっているが、見通しがしっかりしていないと、非常に厳しい事業になるが。
→子育てカウンセラーの資格をとっており、カウンセラー協会のほうと連携をとりながら、講座の開催によって得られる講師料をそちらに充当できればと考えている。
- ・カウンセラーの講座をすれば講師料が協会から入ってくるということか。
→はい。
- ・集客がどれぐらいかは関係なく入ってくるのか。
→はい。一人に対していくらというように子育てカウンセラー協会から講師料が入っている。
- ・講師料として得られたお金がレンタルルーム代として団体に支払われるということか。
→はい。
- ・それでどのくらい見込めそうか。
→5月から実際にレンタルスペースを動かしていくが、非常に厳しいと思う。実際に3月4月に来ていただいた30名は、ご自身で資格を持っていて、積極的にレンタルスペースを月1回でも月2回でも使ってほしいと伝えている。前向きに検討していただいている方が大勢いる。
- ・公的な施設との競争になる。その方々にとって市の会館よりもレンタルスペースを使うほ

うがメリットになるということを何か意識してやらないと厳しいと思う。民間ならではの良さがあれば面白いものになる可能性があると思うが。

→子育てカウンセラーとして参加するときに、子どもがいるからできないと考える母親が多いが、私たちは子どもたちもパートナーとして実際に一緒に活動していきたい、見守りも含めてやっていきたいと考えている。

- ・レンタルルームを借りて、それをほっとルームとして区割りして貸すということか。

→はい。

- ・1日に全部で15組というのをベースに収支予算を作成すると、誤算があると回らなくなってしまうのではないか。

→まだそこまで至っておらず、5月の見通しで4割程度なので厳しい状態ではある。イベント等で広く周知していきたい。

- ・そのリスクを減らそうとするなら、5部屋を最初からスペースにしているが、軌道に乗ってから少しずつ増やしていくほうが安定的にできるのではないか。

→スペース自体が居住に使われていたスペースで、講座の形態や和室がよかったり会議室がよかったりするの、部屋を最初に区切るのが難しい。

- ・レンタルルームの月会員費が予算書の金額に達しない場合、どのようにする予定か。

→スタッフが皆色々な仕事に就いており、今の運営メンバーで軌道に乗るまでは担っていく予定である。

- ・借りる部屋はマンションの一室とかなのか。

→一階に英語で学童をしているスペースがあり、その二階に昔オーナーの方が住んでいたスペースがあり、そこを借りている。

- ・不動産で探した場所ではなく、知っている方のコネ等で借りた場所か。

→はい。オーナーの社長からも茨木市の若い世代の親御さんたちに有意義に使っていただきたいというお言葉を頂戴している。

【子育て支援課の意見】

・相談を受ける中で、市の専門的な支援に繋がったほうがいいようなケースがあれば、市の関係課につなぐお手伝いもさせていただくので、ご連絡いただければと思う。

<プレゼンテーション⑧>

テーマ：自由テーマ型事業

申請事業：子ども電子工作ロボット教室スタッフ養成講座

申請団体：茨木ロボット教室

【評価委員との質疑】

・シニアのためのスタッフ養成講座になるので、収入の受講生教材費と書いているのは、シニアスタッフのことか。

→はい。スタッフの養成コースとシニアのコース二つの講座を開講している。

- ・収入にある500円×最大20名というのは、シニアのコースか。
→シニアのコースもスタッフ養成コースもどちらもである。
- ・どちらのコースも教材費としては一人1回1,800円かかるということか。
→はい。
- ・対象者として、子ども教室スタッフ3～4名、シニアの方々10～15名とあるが、受講している子どもの人数は何人ぐらいか。
→昨年度で90名、今年は70名ぐらいである。
- ・頭数が70～90名で、その方々が毎回参加してくるのか、
→はい。その子どもたちを、養成したスタッフとシニアの方々に順次行事に合わせて対応してもらっている。
- ・昨年の決算書に受講生教材費のところで、103名とあるが、受講する人は70名ほどで延べ人数にすると103名ということか。
→月によって人数に違いがある。トータルするとその人数になる。
- ・今後の展開のところで、講座を受講された方々自身での教室運営が可能とあるが、今はまだゼロということか。
→はい。今は行事に応じて、私についてやってもらっている。徐々にスタッフの方だけで運営していけるようにしたい。

【市民協働推進課の意見】

- ・子ども向け講座は、非常に人気が高く、希望してもなかなか順番が回ってこないと聞いている。そのようなニーズに応えていくためには、やはり指導者の養成も大切になってくると思う。技術力は日本の宝、財産だと思うので、そのような人材を未来に向かってつくるためにも非常に大切な事業だと思う。

○山本委員長　以上で、全てのプレゼンテーションが全て終了いたしました。ここで10分程度、委員相互の意見交換をしたいと思います。冒頭で決定しましたとおり、これ以降は非公開といたします。

《以降、非公開》

以上